

## 案 件：第3回お互いさまのまちづくり協議会 議事録

日 時	令和7年2月26日（水）午前10時00分～午前11時30分
場 所	豊橋市役所 東館8階 東85会議室
参 加 者	委員 14名 事務局 長寿介護課 福祉政策課 市民協働推進課

### 講座

#### （1）福祉政策課職員による講座

- ・「重層的支援体制整備事業について」

#### － 意見 －

- ・アドバイザー：8050問題にも関わるが、障害者を抱える家庭では隠す傾向がある。民生委員児童委員として活動する中で、その家族が亡くなり、一人になった障害者を支援機関に繋いだ経験がある。また、町内会に入っていないという理由から支援の手が差し伸べられない方を支援した経験もある。このように、行政が知らないまま埋もれている事例が多くあるため、行政として把握し、解決していくことが重層的支援体制整備事業に求められている役割であると考え。また、本協議会は重層的支援体制整備事業において重要な資源であり、福祉政策課でも活用を図りたい。
- ・委員：学生の中退及び引きこもりの支援について知りたい。また、地域の繋がりについて、豊橋市の真ん中部分と外側部分で地域差（町内会・民生委員児童委員に繋がりやすい場所とそうでない場所）があると思うが、その点に関して考えていることはあるか。
- ・福祉政策課：中退については、若者サポートステーションとこども若者総合相談支援センターで支援している。引きこもりの情報は隠されてしまうと入ってこないのが課題と考えている。地域差の解消に向けた取組については、地域に入り込んでいく人材の配置等を考えなくてはならないが、手当は及んでいないのが実態。課題としては認識している。他市の事例も参考にしたい。
- ・委員：多機関での連携を深めるためにも、3月に開催される子どもの居場所づくりネットワーク会議へ関係各課が参加してくれると良い。

### 議事

#### （1）お互いさまのまちづくりアニュアルレポートについて

- ・事務局より説明
- ・各委員より取り組み内容について説明

#### － 意見 －

- ・委員：お互いさまのまちづくりネットワークには新たに加入した団体もあるが、廃止してしまった団体もあると思う。何団体廃止したか。
- ・事務局：令和6年度は後継者不足などの理由で2団体が廃止になった。
- ・委員：自身の校区の話になるが、民生委員児童委員との連携に力を入れた。民生委員児童委員が回っている家を地図に落とし、どこにどのような人が住んでいるか分かるようにした。自治会役員と民生委員児童委員で協力して見守りをしているという話になった。今後に繋がる第一歩になったと思う。成果としては、

支援を要する方の自宅に自治会役員、民生委員児童委員、地域の人で見守りを行ったことや、生活・介護支援サポーター養成講座で自治会の活動を紹介したところ、民生委員児童委員の役を受けてくれる方が見つかったことである。

- 委員：地域ケア会議等に出席することがあるが、地域によって自治会の活動に差があると感じる。自治会に入らない人が増えており、役がまわってくるから嫌だという人が多い。
- 委員：牛川校区の自治会と民生委員児童委員は良い関係を築けていると思う。地区によって民生委員と自治会の関わり方に差がある。温度差がすごくあり、見守り活動も難しい。豊橋市全体で民生委員と協力して地域を盛り上げていこうと自治連合会に呼び掛けてもらえたら嬉しい。
- 委員：担い手がいないのはどこも一緒。こまめに自分たちで動き、繋がる努力をするべき。高齢者が増えている中、老人クラブの加入者は減っている。老人クラブのあり方を検討する必要があるように、子どもが減っている中、一貫性のある形で整理して何をすべきかを考えることが大切。会議に出るだけでは進んでいかない。2040年問題に向けて、地域全体で考えることができるような活動が必要。
- 委員：小学校低学年の不登校が多く、学校が居場所になっていない問題がある。災害時の拠点となる学校が居場所となるよう、重層的支援体制整備事業を考えなければ。全域の相談機関はあるが、小・中学校区になると相談できる機関がない。学校の先生の負担が大きい事実があるが、そこに地域の人が入り込むことによって、先生の負担も軽減される。地域の人が入り込める制度があると良い。教育から考え直した方が良い。担い手不足も教育のあり方が影響しているのではないか。
- 委員：八町校区ではコミュニティスクールを行っている。「明日も会おうね」と地域の人が声かけをし、不登校児0になっている。それはすごいこと。地域の目が大切。コミュニティスクールが広まっていくとよい。
- 委員：不登校の子は知られてない。親が隠してしまい、抱えきれなくなってしまう家庭がある。真剣に考えていかなければいけない問題。
- 委員：高齢者は増えているのに老人クラブ会員数は減っている。自治連合会や民生委員は一生懸命活動をしているが、情報が老人クラブに入っていない現状がある。自治会も民生委員児童委員も大変だと思うが、老人クラブにも声をかけてもらえたら嬉しい。会合等に出席し、顔を見て話をするすることで、情報共有を図りたい。
- 委員：民生委員児童委員協議会としては、地区民児協単位での取り組みとして各地区で支え合い活動や居場所づくり、認知症行方不明者模擬訓練等に他団体と連携して取り組んだ。年に1度（2月）の強化月間には啓発チラシを回覧することで、自分が誰に見守られるかを地域の人に知ってもらうことに繋がっている。民生委員児童委員の担い手不足が全国的な課題となっているが、豊橋市では今のところ定員は保たれている。今後は担い手不足もあり得るため、できるだけ地域の皆さんに協力してもらい活動していきたい。
- 委員：民生委員児童委員と老人クラブの連携は何か例があるか。
- 委員：八町校区では、老人クラブのサロン活動やイベントに民生委員児童委員が参加している。
- 委員：社会福祉協議会としては、LINEや広報紙、ホームページ等を活用し、企画情報やグループ紹介などを配信している。また、各種養成講座を開講している。講座に興味をもつていただき、地域でできることを見つけてもらえたら良い。様々な箇所でボランティアの高齢化がみられる。講座にはたくさんの応募があるわけではないが、ボランティアに興味のある方を捕まえたい。受講申込が少

ないことが課題としてあるため、テーマを受講者の興味のあるものに設定することなどを考えている。

- 委員：シルバー人材センターは就業目的の会員を対象とした法人である。担い手創出プランについては、市内の公園等で一斉清掃ボランティア活動を実施している。また、ちょこっとサービス、子育て世帯の生活支援、空き家・空地管理及び介護予防・日常生活支援総合事業（地域型訪問サービス）を有償で実施している。こちらは可能な限り地域の会員で実施している。のびるん de スクールについては、市内の小学校全52校で行っている。現在の会員は2,000人程度で60歳以上に占める割合（入会率）は約1.8%である。今後は入会率を増やし、まちづくりに貢献していきたい。
- 委員：地域のシルバー人材センターの会員や自治会役員で顔の見える関係をつくった方が良い。
- 委員：南部地域包括支援センターでは、活動を中止していた居場所に対し、活動再開への支援を引き続き行い、居場所が再開となったところもあれば、活動開始に至らないところもあった。後継者不足で南部圏域だけでも2箇所の居場所が廃止になる予定。1箇所立ち上がったところもあるので継続して支援したい。
- 委員：認知症行方不明者声かけ訓練については、今年度初めて飯村校区でも実施した。民生委員児童委員や更生保護女性会を中心に自治会も参加。地域ケア会議を踏まえて開催を決定した。新しく立ち上がる居場所へのサポートに力を入れている。自治会と連携して行事の共催や支え合い活動のきっかけづくりができるとういが、そこまでたどりつけていない。様々な関係者と顔の見える関係を作っていきたい。
- 委員：今年度初めて圏域別にまちの居場所づくり活動者交流会を行った。高齢者、子ども、多世代など様々な「まちの居場所づくり」をすでに始めている方、始めてみたい方を応援した。今後は生活支援コーディネーターとして居場所訪問を行うなどして、居場所の数を増やしていきたい。

## (2) 令和6年度における取組結果について

- 事務局より説明

## 3 その他

- 令和7年度 第1回協議会の日程について  
令和7年6月13日（金）14時00分～